

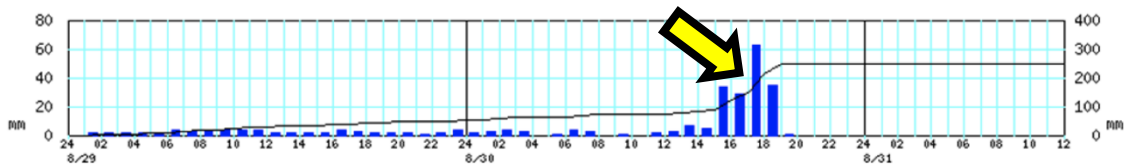
読むだけで強くなる

防災小話 1 「大雨から命を守る」

みなさん、こんにちは。神石高原町防災アドバイザーの内山と申します。今年は梅雨と同時に台風も襲来しました。昨年7月の豪雨の傷跡もまだ癒えてはいませんが、自然は人間の都合に容赦なく、今年も大雨が降るかもしれません。今日は、雨の季節に知っておきたい防災小話をお届けします。

大雨の時に一番大切なことは「早めの避難」です。早めの避難のために、次の3つのポイントを覚えましょう。まず1つ目は「避難所の場所と経路」です。どの道を通るか、何で行くか、そこまでの所要時間も実際に確認しておきましょう。橋は冠水することがあるので、できるだけ大きな橋を使う経路を選びましょう。2つ目は「雨の降りかた」です。災害を起こすような大雨は、2~3時間の短時間に、急激に強く降ります。現代の技術でも、精密な予測は難しいものです。ましてや、人間の感覚では、急な気象の変化を予想することは困難です。屋根を打つ雨の爆音に、これはやばいな！と思った時には、既に道路や橋が冠水して、逃げ遅れることがあります。また、急激に強く降るということは、町が出す避難勧告などの基準雨量に達する時刻から、実際に災害が発生するまでの時間的な猶予が短い、ということにもなります。災害を起こす雨は急に来る。これは、過去の災害の教訓ともいべき知識です。ぜひ身を守る判断に活かしましょう。

岩泉 2016年8月29日00時~2016年8月31日12時



平成28年台風10号の雨の降りかたの例（出典：盛岡地方気象台）

3つ目は、最後の手段「垂直避難」です。自宅からの避難が難しい状況になった場合、建物の2階以上の、山から離れた部屋に避難しましょう。夜に大雨が降りそうな日は、あらかじめ2階で眠ることも、災害から生き残る知恵の一つです。でも、垂直避難は最後の手段。空振りになっても、ぜひ早めの避難を心がけてください。

2019（令和元）年6月28日

神石高原町防災アドバイザー
内山庄一郎（防災科学技術研究所）

